

営農だより 野菜版 6号

J A ふじ伊豆御殿場営農経済センター
2026年（令和8年）7月17日発行

☆適期管理・適期防除・適期収穫で品質の良い野菜を栽培しよう！！

キャベツの栽培

～『春・夏・秋』とまき時が3回ありますが、最も栽培しやすいのは夏まき秋収穫の作型です。ぜひ挑戦してみてください～

1. 特徴

比較的冷涼な気候を好み、生育初期は耐暑性・耐寒性ともに強いですが、結球が始まると弱くなります。**28℃を超えると生育が衰え、病害の発生も多くなる**ので注意が必要です。また、**2～3℃以下ではほとんど球は肥大しません。**

- ①発芽適温：20～25℃（30℃以上では発芽不良や不揃いになりやすい）
- ②生育適温：15～20℃（5～28℃の範囲で生育し冷涼な気温を好む）
- ③結球適温：13～20℃（28℃以上の高温や7℃以下では結球の進行が鈍る）

2. 施肥

	資材名	1a当りの施肥量	備 考
堆 肥	牛ふん堆肥	250kg	定植の1ヶ月前に施用
土壌改良材	畑のカルシウム	10kg	
元 肥	粒状ようりん	3kg	定植の1週間前に施用
	園芸化成S550	15kg	
追 肥	新FIE 燐硝安加里s280	3kg	

3. 播種・育苗

ポット育苗：ポットに3～4粒ずつ種をまき、軽く覆土して、たっぷりと水をやります。その後、本葉が2枚の頃に間引きして1本立ちにします。

セルトレイ育苗：128穴のトレイを使い種を1粒ずつまき、軽く覆土をします。本葉が2枚の頃ポットに鉢上げをします。

※トレイ育苗での**軟弱徒長を防ぐ**ため以下の2点のことに気を付けて育苗して下さい。

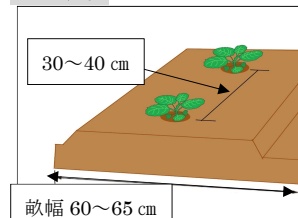
- ①**灌水はできるだけ午前中**に行い、**日暮れ頃トレイがやや乾く**程度にします。ハウスなどでは、ベンチなどの上に置いてトレイの下に空間を作り、風通しを良くします。
- ②夏まき育苗期間の**後半**（播種後10日～2週間目以降）はできれば**屋外で育苗**し、風や夜露に当てて苗をしめます。



※トレイの土は乾きやすいので、夏場は毎日灌水が必要です。特にトレイの縁は乾きやすいので、灌水が出来ているか、しっかりと確認して下さい。

4. 定 植

活着の良否がその後の生育に大きな影響を及ぼすので、定植は晴天の午前中に行います。あらかじめ定植苗に十分灌水しておき、植穴にもあらかじめたっぷりと灌水しておきます。



- ・畝幅：60～65cm
- ・株間：30～40cm（早生）
- ・株間：40～45cm（中生～晩生）
- ・畝高：8～10cm
- ※高畝で水はけを良くし根腐れを予防します。

定植苗の目安の大きさ



※株間は収穫するキャベツの玉の大きさにより調整しましょう。株間が広いと大玉になりやすいので注意が必要です。

5. 追 肥

1回目：定植してから**1週間～2週間後に畝間に肥料を施用**します。併せて**中耕**をすることで、畑の排水性や透水性が高まり、**根の発育を促して生育が促進**されます。

2回目：結球開始前（定植後2週間～20日頃）に1回目と同様の作業を行います。結球期での追肥・中耕は、根の切断により生育を遅らせ、収量・品質を低下させる為、**追肥は必ず結球前**に行いましょう。

6. 防 除

キャベツは下記のように、病虫害が出やすい作物です。栽培する際は草取りや農機具の洗浄等、基本的な防除対策を行った上で、感染予防・早期防除を心掛けましょう！

べと病

黒腐病

ハスモンヨトウ

コナガ

【防除例】

※効果の高い薬剤を紹介しますが、連用は抵抗性がついて効かなくなります。系統の違う薬剤を用意し**ローテーション防除**を心がけましょう！

薬剤名	対象病虫害	倍 率	1a当り 使用液量	使用回数	時期
ダコニール1000	べと病、根朽病	1,000倍	10～30ℓ	2回以内	14日前まで
ゼットボルドー	黒腐病、べと病	500倍	10～30ℓ	—	発病初期まで
※ブレバソフロアブル5	コナガ・アオムシ・ヨトウムシ	2,000倍	10～30ℓ	3回以内	前日まで
プレオフロアブル	コナガ・アオムシ・ヨトウムシ	1,000倍	10～30ℓ	2回以内	7日前まで

※《灌水処理（水やりの代わり）》

ブレバソフロアブル5は灌水処理ができます。灌水処理をするとセルトレイの培土に処理された薬液が根から吸収され、**有効成分が作物全体に行き渡り効果を発揮**します。

使用時期	倍率	使用液量	使用回数
育苗後半～定植当日	100倍	1セルトレイ当り500ml	灌水処理1回、散布は3回まで

※灌水処理の場合、展着剤は使用しないで下さい。

ブロッコリー・カリフラワーの栽培

～比較的病気に強い作物です。栽培しやすい夏まきの作型に挑戦してみてください～

1. 特徴

冷涼な気候を好むため、真夏を除いた春と秋が栽培適期です。**家庭菜園で育てやすいのは夏まき・秋冬取りです。ただしカリフラワーの方が栽培の難度はやや高く、微量要素の欠乏症が出やすいので堆肥と苦土セルカを施用します。**

- ①発芽適温 20～25℃（4～35℃の広い範囲で発芽可能だが最適温は25℃前後）
- ②生育適温 15～20℃（昼夜の温度差が3～5℃程度あればよい）
- ③花蕾の生育適温 15～18℃（平均気温が25℃以上になると生育や形状が悪くなる）

2. 施肥

	資材名	1a当り施肥量	備考
堆肥	牛ふん堆肥	250kg	定植の1ヶ月前に施用
土壌改良材	※苦土セルカ	10kg	
	畑のカルシウム	10kg	定植の1週間前に施用
元肥	粒状ようりん	3kg	
	園芸化成S550	16kg	
追肥	新FTE燐硝安加里s280	5kg	

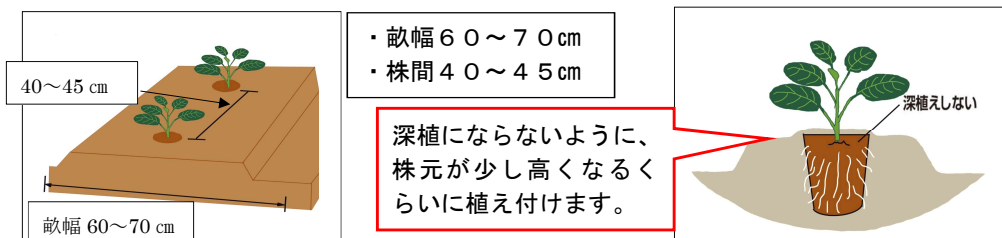
※苦土セルカはカリフラワーの場合に施用する。

3. 播種・育苗

播種と育苗につきましてはキャベツと同様となりますので、表面を参考にしてください。

4. 定植

定植の前にポットごと水につけて給水させておくか、定植後たっぷりと水をやります。湿害に弱いので排水の悪いところでは高畝にします。



5. 追肥

【早生・中早生種】 ※生育期間が比較的短いので初期生育から追肥が重要です。

1回目：定植後1週間～2週間後。2回目：1回目の追肥後2週間～20日後。

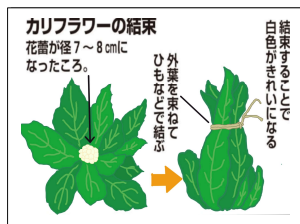
【中生・晩生種】

1回目：定植後1週間～2週間後。2回目：1回目の追肥後2週間～20日後。

3～4回目：花蕾発生後すぐに施用。生育期間が長いので、**肥効を途切れさせない**ように、生育具合を見ながら適期で施すようにします。

キャベツと同様に畝間全面に施用し、同時に「中耕」「除草」「土寄せ」を行うことで株を安定させます。また中耕により畑の排水性や透水性が高まり、根の発育を促して生育が促進されます。

6. カリフラワーの結実



カリフラワーは花蕾に日光が当たると淡黄色に着色し、**白い外観を損ないます。**品種によるが、花蕾が7～8cm程度の大きさになったとき、**葉を折って花蕾に乗せたり、葉を結束**させたりして軟白することが必要です。

花蕾が着色する品種は株間を40～50cmと広めにし、**結束せずに光を当てるのがコツ**です。

7. 異常花蕾（ブロッコリー・カリフラワーの生理障害）

栄養分の過不足や温度・降水量など天候が原因で花蕾に異常が生じます。その症状が**生理障害なのか病気なのか、見極めは難しいです。**また、天候不順による生理障害への対処は難しいが、必要な**肥料成分を過不足無く調整することである程度は対処が可能**です。下記の表を参考にし、正常花蕾と比較してみてください。

ブロッコリー・カリフラワー【共通】	
ボトニング（早期抽苔） ・花蕾肥大に必要な葉数を確保する前に花芽分化し、結果的に小花蕾となる。 原因：低温、活着不良、肥切れ、根痛み	
リーフィー（さし葉） ・生殖生長が途中で停止し栄養生長に逆戻りした結果、花蕾の間に葉が発生する。 原因：花蕾肥大期の高温、チッソ過多	
ブロッコリーのみ	カリフラワーのみ
不整形花 ・花蕾面の蕾の発育が不均一で、花蕾面が凹凸したり、着色が不均一になる。 原因：活着不良、チッソ過多、高温条件	ヒュージー（毛羽立ち） ・花蕾形成の後期になり、極小さな葉が表面に出る。 原因：活着不良、チッソ過多、高温条件
ブラウンビーズ ・花蕾肥大期にストレスを受け、蕾が枯死し褐変する。 原因：高温・乾燥、強日照、収穫遅れ	ライシー ・花肥大期に個々の蕾が発達して花蕾の表面に飛び出す。 原因：低温
キャッツアイ ・花蕾粒の不揃い。小花蕾の中央の蕾が小さく猫の目状となる。 原因：ボトニングと同様。花の厚さが薄くなるほど目立つ。	ブラインド（芯止まり） ・成長点の生育が座止し、そこから苞のような葉を形成する。 原因：高温条件、凍害